

様式(7)

報告番号	甲 保 第 1 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	片岡 三佳
題 目	Clarifying the Strengths-Oriented Attitude among Nurses in Psychiatric Hospitals in Japan (日本の精神科病院に勤務する看護師のストレングス志向の実態)
<p>目的： 2011 年，精神疾患が「日本の 5 大疾患」の一つに位置づけられ，世界的視野から見ると遅れたものの日本の精神医療における脱施設化への取り組みが確実に始まっている。脱施設化を推進するには，精神科病院に勤務する看護師および准看護師の行動の基盤となるストレングスに対する志向が重要となる。そこで日本の精神科病院に勤務する看護師および准看護師のストレングスの志向を明らかにした。</p> <p>方法： 調査期間は2013年10月～2014年1月であった。調査対象は，日本の精神科病院に勤務する看護師および准看護師（以下，精神科看護師）。調査方法は，調査協力が得られた精神科病院に対し，調査の趣旨を明記した調査依頼文書および調査用紙を郵送し，自記式・無記名方式で回答を得た。調査内容は，個人属性，アメリカのRappらの著書を参考に著者らが独自に作成した精神科看護師のストレングスの志向に関する25項目（Strengths Oriented Attitude Inventory，以下，SOAI）で，回答は4件法で求めた。解析は，個人属性とSOAIとの関係性を検討した。</p> <p>結果： 17精神科病院の1148名に対し，調査票を配布し1055名（回収率91.9%）から回答を得た。記入漏れをのぞく984名（有効回答率85.7%）を分析対象とした。</p> <p>結果，精神科看護師のストレングス志向として，4因子（【社会面を重視したアセスメントに基づく実践】【全人的なアセスメントに基づく実践】【地域をベースに展開されるその人らしい生活への支援】【個人のもっている力の重視】）が抽出された。日本の精神科看護師のストレングス志向は，【個人のもっている力の重視】や【全人的なアセスメントに基づく実践】の志向は高いが，【社会面を重視したアセスメントに基づく実践】や【地域をベースに展開されるその人らしい生活への支援】の志向が低いと思われた。精神科看護師のストレングス志向は，資格や職位，経験した勤務場所や支援内容により有意差がみられた。資格では，准看護師は看護師および看護師と准看護師の両方の免許をもっている者よりもSOAI総合得点，および【全人的なアセスメントに基づく実践】【地域をベースに展開されるその人らしい生活への支援】【個人のもっている力の重視】が有意に低かった。</p> <p>考察： 今回の調査結果からは，精神科看護師のストレングスの志向は年齢や経験年数，学歴による有意差は認めず，性別，現在の職位や職場および資格，経験した職場や支援内容に差が認められた。このことより，精神科看護師のストレングスの志向は，経験の長さではなく，臨床現場において，どのような職務内容と体験を積んできたかが重要であると思われた。</p> <p>本研究の結果から，精神科看護師のストレングスの志向を高めるためには，1. 病棟勤務および准看護師のスタッフを対象にした“社会面を重視したアセスメント”および“地域を基に展開されるその人らしい生活への支援”に関する教育の充実，2. 精神科看護師が心理教育，退院促進支援および訪問看護を体験することができるような現任教育システム強化や勤務異動を検討することの必要性が示唆された。看護教育課程の影響，勤務場所や支援内容とSOAIの関連がみられたことより，多職種協働による【社会面を重視したアセスメントに基づく実践】や【地域をベースに展開されるその人らしい生活への支援】を行うことで，職業的な経験の中から全体的なストレングス志向が高まることが推察された。</p>	